

東京都中央卸売市場における花きの需給動向

農試経営部

1 背景とねらい

今後ますます激化が予想される農産物の産地間競争に打ち勝つためには、産地側における需動向の的確な把握とそれに基づく積極的な対応が求められる。特に花きの場合は嗜好性が強いことから消費動向や嗜好調査などの需要分析はもとより、出荷時期や競合などにより出荷量や価格の変動の著しい品目も見られることから、市場における入荷量と価格の時系列的な把握も重要である。

そのため県内で栽培されている切花を対象に、東京都中央卸売市場のデータを用い、花きの入荷量と価格の季節的、経年的な変動の有無と需給動向を計測した。

2 技術の内容

(1) 計測方法

入荷量と価格の季節的、経年的な変動の有無は分散分析法により検定した。その結果季節的な変動のある品目についてどのような変動パターンがみられるかを連環比率法で計測した。また、経年的な傾向については分散分析法によって把握し、その内容を供給・価格動向指標なより検討した。

(2) 季節性の計測結果

月によって入荷量・価格に差が認められる（季節性のある）品目とその特性は次の通り。

| | 平均入荷量より入荷が多い時期 | 平均価格より価格が高い時期 |
|------------|----------------|---------------|
| バラ | 4～6月、9～12月 | 11～3月 |
| てっぽうゆり | 3月、5～8月、12月 | 9～3月 |
| その他ゆり | 5～7月、9～10月 | 9～3月 |
| すかしゆり | 4～7月、12月 | 9～4月 |
| スターチス シニア系 | 3～6月 | 10～3月 |
| その他スターチス | 5～9月 | 9～3月 |
| トルコギキョウ | 5～10月 | 2～5月 |
| 大輪グラジオラス | 6～12月 | 1～5月、11月 |

| | | | |
|--------------|--|-------------|-------|
| 季節性がある品目 | 宿根かすみそう | 1月、3～5月、12月 | 8～11月 |
| | アルストロメリア | 3～6月 | 10～3月 |
| | カラー | 12～5月 | 7～11月 |
| | きんぎょ草 | 3月、10～12月 | 10～3月 |
| | くじゃく草 | 4～6月、9～11月 | 11～4月 |
| 季節性が計測されない品目 | 輪ぎく、スプレーぎく、小ぎく、カーネーション スプレーカーネーション、スプレーバラ、フリージア デルフィニウム、ひまわり | | |

(3) 年次間変動の計測結果

ア 供給・価格動向

年によって入荷量・価格に差が認められる品目とその傾向は次の通りである。

スプレーバラ ……入荷量、価格とも上昇程度が高い。

すかしゆり ……入荷量の増加程度が高いが、価格は下落傾向が強い。

その他ゆり ……入荷量、価格とも上昇程度が高い。

トルコギキョウ ……入荷量、価格とも上昇程度が高い。

アルストロメリア ……入荷量の増加程度が高いが、価格は低迷～下落傾向。

きんぎょ草 ……入荷量の増加程度が高いが、価格は下落傾向が強い。

イ 岩手県で出荷可能な時期の需要動向

上記の品目を対象に需要関数の計測により岩手県で出荷が可能な時期の特定を試みた。その結果明らかになったのは、スプレーバラの6、8、9月、トルコギキョウの6月であった。この時期は両品目とも需要に増加傾向がみられ、出荷拡大による販売額の増加が見込まれる。

3 指導上の留意事項

- (1) 分析期間は昭和63年～平成5年。分析品目は県内で栽培されている切花のうち、東京都中央卸売市場に周年入荷のある22品目である。
- (2) 需要関数は現在までのデータをもとに求めたものであり、今後の市場再編の等の条件変化で変わる可能性がある。
- (3) りんどうは分析期間に入荷がない月があるため対象に入れていない。